

## 長野環境人

自然に優しく、暮らしを楽しむ

## 小林光さん対談企画

ライチョウ会議議長  
中村浩志さんと語る

生息数を2000羽弱にまで減らし、絶滅が危ぶまれる国の特別天然記念物ライチョウ。研究の第一人者で、保護活動を推進する信州大学名誉教授の中村浩志さん(77)。「上水内郡飯綱町」は現状を「今まさに天守閣が燃えている」と憂う。一方で、自ら指揮を執り、地域絶滅した中央アルプスに生息地を取り戻す環境省の「復活作戦」は成果を上げつつある。

恩師の故羽田健三信州大名誉教授の遺志を継ぎ、ライチョウ研究を再開したのは50歳を過ぎてから。諸外国での経験から人を恐れないのは日本のライチョウだけと気づき、その要因を日本文化に見いだしたことも再開の動機となった。山岳信仰の奥山にすむライチョウは尊ばれ、狩猟の対象にならず、まさに「神の鳥」だった。

調査で訪れた高山の環境は、羽田教授の手伝いで登った20、30代の頃とは激変して

いた。高山帯へ進出したシカなどによる食害、キツネやテンといったライチョウを捕食する動物の増加。」「これではライチョウが絶滅してしまふ。研究だけでなく保護にも力を入れるようになった。」

ライチョウは生後1カ月間の死亡率が高いことを突き止めた中村さんは、その間を

金網に入れて守る「ケージ保護」を考案した。崩れた生態系のバランスを目の当たりにし、高山帯には人の手を加えないとしていた環境省の方針を転換させ、捕食動物の捕獲も推進した。「バランスを元に戻さないと、多様な生き物がすむ自然がだめになる」と強調する。



ライチョウを見つめる中村さん。2023年7月、中央アルプス

ケージ保護の手法は中アにも導入した。他の山から飛んできたと推定された「飛来メス」の2018年の発見を機に始まった復活作戦は想定を上回る進展を見せ、生息数は140羽程度まで増えた。中村さんは「中アは最もライチョウを観察しやすい場所になるだろう」と語り、作戦に手応えを感じている。

(唐澤翔、企画・野村知秀)

# 日本文化を象徴するライチョウ

## 長野環境人士

### 自然に優しく、暮らしを楽しく

#### 小林光さん

#### 対談

#### 中村浩志さん



中村浩志さん 77

一般財団法人中村浩志国際鳥類研究所代表理事。信州大学名誉教授。ライチョウ会議議長

### 高校まで考古学

小林 2020年から始まった環境省の中央アルプスライチョウ復活事業では研究者として中心的な役割を果たされています。やはり子どもの頃から鳥が好きだったのでしょうか。

中村 いいえ。実は高校までは考古学が好きで高校時代は考古学のクラブに入っていましたよ。

小林 その話も聞きたいのですが鳥に関心を持たれたのは、信州大学からですか。

中村 はい。残念ながら考古学を学ぶ学科がありませんでしたので。そこで仕方なく選んだのが鳥の研究でした。ここが出发点です。約30年間ライチョウを研究した故羽田健三教授の研究室に入ることになり、先生が退官されるまでの最後の5年間を手伝いました。

### 古くから神の鳥

小林 なぜライチョウなのか。何か特徴があるのでしょうか。

中村 日本のライチョウが生息しているのは本州中部の高山だけです。貴重な鳥で国の特別天然記念物に指定されています。ライチョウは約2万年前の最終氷期、日本がまだ大陸と陸続きだった頃、移ってきたと考えられています。当初は北海道や東北にもいたはずですが、小林 なぜ北海道や東北では絶滅し、中部地方の高山でだけ生き残ったのですか。

中村 縄文時代中期の今よりも温暖だった時期に北海道のライチョウは絶滅したと思います。本州



小林光さん 74

元環境省環境事務次官。東京大先端科学技術研究センター研究顧問。茅野市行政アドバイザー(環境分野)

中部には北アルプスや南アルプスなど標高の高い山々があったのでライチョウは世界最南端に生きるライチョウです。

小林 保護されてきたからでしょうか。

中村 日本には高い山には神が住むという山岳信仰が古くからあり、里山は人の領域、奥山は神の領域と考えられてきました。その領域に生息するのが本州のライチョウです。高山にすむ日本のライチョウは世界で唯一、人を恐れませんが、古くから神の鳥でしたから。明治政府の神仏分離政策で山岳信仰と仏教が結び付いた修験道が禁止されたことにより、信仰心を持たない人がライチョウを捕まえるようになり、明治時代後期になると、狩猟鳥の対象から外れました。ですが、大正から昭和の初め頃には、はく製にするためとして再び、乱獲されました。

### 復活作戦順調に

小林 さすが考古学少年ですね。ライチョウの存在意義をどう考えますか。

中村 日本のライチョウが人を恐れないのは、日本の信仰とかかわってきたからです。日本文化を象徴する鳥とも言えます。2012年に国際ライチョウシンポジウムが松本市で開かれ、世界中から研究者が集まりました。その際にライチョウの生息地を訪れる体験型見学会が乗鞍岳や北アルプスで行われましたが、参加した研究者は人を恐れないライチョウに興味津々

## 神の鳥は人を恐れない

でした。ライチョウ復活作戦が順調に進み、中央アルプスの宝剣岳でも見られるようになりました。ロープウェイがある中央アルプスはおそらく日本で最も手軽にライチョウが観察できる場所でしょう。

小林 もともと絶滅していた中央アルプスでライチョウが定着したとはすごいことです。

中村 ライチョウは多産の鳥で卵を6〜7個産みます。保護がうまくいけば増えます。

小林 私はチョウが好きなのですが、八ヶ岳にはミヤマシロチョウがいました。今はおそらく絶滅してしまったのですが、遺伝子を調べると、浅間山とか南アルプスと交わらないよう昔は行き来していたようです。

中村 チョウが育つ環境が整えばいつかは戻ってくるでしょう。ただ、八ヶ岳は今、ニホンジカの

食害が問題でその影響が山頂近くまで広がっていますから難しいかもしれませんね。

小林 そうなのです。やはりライチョウもシカと競合しますか。

中村 競合します。高山に侵入したシカが食べているものとライチョウが食べているものは同じですから。

### 放置と自然は違う

小林 学生の頃のライチョウ研究と比べ、今の生息環境をどう見えますか。

中村 若い頃、生息域でニホンジカやイノシシ、サルと遭遇することはありませんでしたが、今は普通にあります。

小林 地球温暖化が原因でしょうか。

中村 関係しているかもしれないませんが、本来は平地に生息していた動物たちが高山にいるわけですか



ライチョウを保護する意義とライチョウを育む環境を維持する大切さを語る中村さん(右)と小林さん(左)＝2023年11月6日

### バランスを戻す

小林 昨春秋はクマの被害と駆除について議論になりましたね。

中村 クマは一時期、個体数が激減したからね。そういう段階で保護は必要でした。ただ、今はどうでしょうか。バランスが崩れているように感じます。クマに限らず、日本の自然は今、増えすぎた一部の野生動物によってバランスが崩れています。そのバランスを元に戻さないと、多様な生き物がすむという自然がだめになります。

小林 希少な動物がいない自然は、つまらないものになり、人々の関心も薄れてしまいます。北アルプスや中央アルプスに行くときライチョウに会えると思うと、自然に対する関心が高くなるし、環境にいいことをしようという力が育まれます。

中村 日本の高山の自然はライチョウを残しました。それだけでなく、手つかずの花畑も残しました。欧州では一部を除きますが、多くが高山帯でも放牧されてきました。それに対し、日本は高山を神の領域と考え、立ち入らず、里山で自然に手を入れ、バランスをとってきました。その結果、世界

## 世界全体でも極めて貴重な高山の自然



生存が確認された「飛来メス」。全て赤色の足輪がついている(中村浩志さん撮影)

ら。高山にシカが入ると、ライチョウの生息環境が脅かされ、やがて日本のライチョウは絶滅してしまうでしょう。それを知ってしまったからは、自然保護に対する意識が高まりましたね。

小林 捕食者の影響もありますか。

中村 捕食者であるキツネやテン。これらもかつては高山にはいませんでした。

小林 シカとキツネやテン、影響はどちらの方が大きいのでしょうか。

中村 同じくらいです。小林 キツネやテンは捕獲しないのですか。

中村 最近になってようやく環境省が高山帯の特別保護地区での捕獲を許可してくれました。

小林 特別保護地区は基本的には土、石を含め一切触れてはいけない場所ですからね。

中村 環境省は長年、高山には人の手を入れないというのが基本的な考えだったと感じています。2000年代の初めにシカやサルの被害に気が付き、環境省に訴えたことがありましたが、当時の見解は「シカやサルが高山に登るのは自然現象であるから手を付けるべきではない」でした。人の手を加えないのが自然という考え方は外国から入ってきたもので、自然に手を入れないことが自然だというのは誤った考え方です。日本は昔から自然との共存でした。自然とはバランスなのです。

的に見ても貴重な手つかずの自然を高山に残すことができました。

小林 そうした点をライチョウの研究者たちはどう評価していますか。

中村 ライチョウシンポジウムで印象深かったのは、逃げないライチョウとともに高山に残る手つかずの花畑を見た世界の研究者たちの日本を見る目ががらりと変わったことでした。高山には自然の花畑があり、そこにライチョウの親子がいること。それは世界全体から見たら極めて貴重な環境だということを知ってほしいですね。